

平成 18 年 12 月 21 日

愛知県環境影響評価審査会  
会長 成瀬 治興 様

愛知県環境影響評価審査会  
設楽ダム工学系部会  
部会長 北田 敏廣

豊川水系設楽ダム建設事業環境影響評価準備書について（報告）

平成 18 年 9 月 11 日に審査を依頼されたこのことについては、別添のとおりです。

## 豊川水系設楽ダム建設事業環境影響評価準備書に係る 工学系部会報告

豊川水系設楽ダム建設事業環境影響評価準備書について、環境の保全の見地から慎重に検討を行った。

本事業の予定地周辺は、豊かな自然環境が広がり、多様な生物の生息・生育の場であるとともに、地域住民にとって重要な生活・生産の場である。本事業はこのような場所に大規模なダム建設事業を行うものであり、事業実施に当たっては環境保全に万全を期す必要がある。

事業者においては、以下の事項について慎重に検討し、その結果を環境影響評価書（以下「評価書」という。）に記載するとともに、自然環境及び生活環境に与える影響についてできる限り回避・低減が図られるよう努めることが必要である。

### 1 全般的事項

- (1) ダムの規模（貯水池容量）については、その規模とした理由について評価書に記載すること。
- (2) 事業の実施に当たっては、環境保全に関する最善の対策や技術を導入するなど、より一層の環境影響の低減に努めること。
- (3) 環境への影響に関して新たな事実が判明した場合などにおいては、必要に応じて適切な措置を講じること。
- (4) ダムからの放流量の管理、運用に当たっては、ダムから下流、特にダムの直下から野々瀬川合流点までについて、水位、流量等を河川の持つ自然な変動により近づけるよう配慮すること。
- (5) 工事中及び供用後において、出水現象に依存すると考えられる生態系を維持するため、ダム下流の水質や土砂の移動、魚類、河畔の植生などについても環境監視を行うこと。
- (6) 環境監視については、専門家の意見を聴いて、必要に応じ調査範囲を拡大するなど、適切な環境監視計画を作成し実施するとともに、その結果に基づき必要な措置を講じること。
- (7) 試験湛水期間中については、下流河川への影響を低減するため、ダム直下の水量の確保及び水質の維持に努めること。

## 2 大気質、騒音、振動

- (1) 工事の実施に当たっては、集落などの近傍における建設機械の稼働や工事用車両の走行に伴う環境への影響を低減するため、低公害型の建設機械及び環境負荷の少ない工法の採用に努めるとともに、工事用車両の走行台数の平準化に努めること。
- (2) 工事の実施に当たっては、粉じん等の一層の低減を図るため、タイヤ洗浄施設の採用、散水の実施、裸地の防じんシートによる養生等、強風時の作業自粛、工事用車両が走行する道路の清掃などの措置を講ずること。
- (3) 集落の近傍での工事の実施に当たっては、建設機械の稼働に係る騒音の影響の低減を図るため、建設機械の配置、作業時間等に十分配慮すること。  
また、工事用道路の新設に当たっては、住宅からの離隔距離に配慮すること。
- (4) 降下ばいじん、騒音及び振動の予測については、建設機械の配置、予測地点までの距離など予測条件を評価書に記載すること。

## 3 水質

- (1) 工事の実施に当たっては、濁水の流出防止のため、沈砂池の浚渫等により必要な沈砂機能を維持・確保するとともに、流出水の濁りの状況を把握し、必要に応じ適切な措置を講じること。
- (2) 曝気循環設備の構造や能力、曝気水深等の検討に当たっては、水温の影響の低減だけでなく、水質浄化や貯水池の景観にも配慮すること。
- (3) 貯水池の水質管理については、適切な環境監視計画を作成し、水質監視を実施するとともに、監視結果に基づき必要な措置を講じること。

## 4 廃棄物等

廃棄物等の記載については、その発生量の算出根拠を明らかにすること。また、事業の実施に当たっては、関係法令を遵守し、廃棄物の発生を抑制することはもとより、再使用又は再生利用を徹底し、再使用又は再生利用ができないものについては、適正に処理すること。

## 5 その他

- ( 1 ) 評価書の作成に当たっては、住民などの意見に配慮するとともに、住民などにわかりやすい内容となるよう努めること。
- ( 2 ) 事業の実施に当たっては、地域住民からの環境に関する要望に対して適切に対応すること。
- ( 3 ) 事業者においては、今後とも本事業についての地域住民の理解が深められるよう、説明会の開催や工事に関する情報及び各種の調査結果の提供等に努めること。

## 検 討 の 経 緯

年 月 日	会 議	備 考
平成18年 9 月11日	審査会	知事からの諮問 準備書の内容の検討 住民意見の概要等の検討 部会の設置及び付託
平成18年10月10日	部 会	準備書の内容の検討
平成18年11月 6 日	部 会	準備書の内容の検討
平成18年11月30日	部 会	準備書の内容の検討 公聴会意見の検討 関係市町長意見の検討 部会報告の検討

## 愛知県環境影響評価審査会設楽ダム工学系部会委員

今榮 東洋子	慶應義塾大学理工学部教授
岩田 好一朗	中部大学工学部教授
岡村 穰	名古屋市立大学大学院芸術工学研究科教授
北田 敏廣	豊橋技術科学大学工学部教授
黒田 達朗	名古屋大学大学院環境学研究科教授
大東 憲二	大同工業大学工学部教授
立川 壮一	藤田保健衛生大学医学部教授
田中 稲子	岐阜市立女子短期大学非常勤講師
永瀬 久光	岐阜薬科大学教授
朴 恵淑	三重大学人文学部教授
坂東 芳行	名古屋大学大学院工学研究科助教授
廣島 康裕	豊橋技術科学大学工学部教授
藤江 幸一	豊橋技術科学大学工学部教授
藤原 奈佳子	名古屋市立大学看護学部助教授
堀越 哲美	名古屋工業大学大学院工学研究科教授
光田 恵	大同工業大学工学部助教授

部会長

部会長代理

(敬称略、五十音順)